

第三章 まとめ

1. 地震保険加入者の属性

本調査では、アンケート対象を世帯主またはその配偶者に限定し、その年齢構成を国勢調査に基づく世帯主の年齢構成にできるだけ近づけて実施した。

地震保険加入者は、火災保険のみ加入者や共済加入者（地震不担保）、保険・共済非加入者と比較して、既婚者の比率が高く（p.8）、扶養家族や子供の人数も多い傾向（p.13,14）が見られた。預貯金額や所得については、それらの回答者区分と比較して、高額層の比率が高い傾向（p.15,16）が見られた。共済加入者（地震担保）との比較においては、既婚者の比率が高いこと（p.8）や扶養家族の人数が多いこと（p.13）、預貯金や所得額の高額層の比率が他の回答者区分と比較して高いこと（p.15,16）など、地震保険加入者との類似点が見られた。

住居建物の属性について、地震保険加入者は、地震保険非加入者と比較して、戸建・共同住宅の構成比率はほぼ等しい（p.17）が、持ち家の比率が高い傾向（p.18）が見られた。また、住居建物の構造は非木造の比率がやや高く（p.19）、建築年代が新しい傾向（p.20）が見られた。地震保険加入者は、その他の回答者区分よりも住宅ローンの返済を行っている世帯の割合が高く（p.21）、住宅ローンを銀行や信託銀行等から借入れる世帯の比率が高い傾向（p.22）が見られる。

2. 地震保険加入者の地震危険に対する意識

地震保険加入者は、地震保険非加入者と比較して、近い将来に大地震が発生する可能性が高いと感じている者の比率が高い傾向（p.24）が見られる。ただし、大地震が発生した場合の住居建物や家財への被害発生の可能性については、地震保険加入者と非加入者の間に大きな違いは見られない（p.30,35）。地震保険加入者は、非加入者と比較し、大地震に対する備えとして、住居建物の構造等を考慮した者の割合が高い傾向（p.36）が見られる。

地震による被災経験の有無については、地震保険加入者や共済加入者（地震担保）において、被災経験を有している者の比率が高い（p.39）。また、仮設住宅に入居した経験がある者の比率や被災時の借入れの経験がある者の比率もやや高く（p.43）、これらの経験が、地震保険に加入する一要因として働いている可能性がある。地震保険加入者は、被災した建物の修繕や再建の際、意識して耐震性を高めた者の比率が非加入者よりも高い傾向（p.50）が見られる。

3. 地震保険に加入した理由等

地震保険加入者は、地震保険を知ったきっかけについて、「住宅購入時や入居時の関係者の話」を挙げる者の比率が高い (p.55)。また、住居建物を目的とした地震保険の加入理由として、「火災保険とセットで契約したから」「住居建物の購入時に関係者に加入を勧められたから」を挙げる者の比率が高く (p.56)、住居購入は地震保険加入の大きなきっかけの一つになっていると考えられる。地震保険加入者の属性に見られたような持ち家の比率が高い傾向や建築年代が新しい傾向、住宅ローンの返済を行っている世帯の割合が高い傾向などは、住居購入時に地震保険に加入する者が多いことを反映しているものと考えられる。家財を目的とした地震保険についても、加入理由として「住居建物の地震保険とセットで契約したから」を挙げる者の比率が、「火災保険とセットで契約したから」に次いで 2 番目に高く (p.56)、住居購入時に加入する場面が多いものと考えられる。

4. 地震保険に加入しない理由等

火災保険のみ加入者について、「名前を知っている程度」を含め、地震保険を知っている者の比率は 96.8%である (p.59)。それらの者のうち地震保険に加入する検討を行ったことがある者は 43.9%と半数に満たない (p.61)。地震保険への加入を検討しない理由としては、「保険料が高いイメージがあるから」とする回答が最も多く、4 割程度を占める (p.65)。また、地震保険への加入を検討したことがある者についても、結局地震保険に加入しなかった理由として「保険料が高いイメージがあったから」とする者の比率が 3 割程度と高く (p.63)、地震保険は高いという先入観が地震保険への加入の阻害要因の一つになっているものと考えられる。実際、地震保険料を示したうえで保険料の印象を尋ねた設問において、「高い」「やや高い」とする回答の比率は 6 割を占めているものの、「妥当である」「やや安い」「安い」を合わせた比率は 4 割近くに達する (p.70)。地震保険を知っている者のうち、半数以上が地震保険の「名前を知っている程度」の認知度であり、保険料や補償内容の理解の促進が、地震保険への加入率上昇につながる可能性がある。

保険・共済非加入者について、地震保険を知っている者の比率は 91.7%と、火災保険のみ加入者と同等程度の認知度となっているが、7 割が「名前を知っている程度」であり、「補償内容をよく知っている」「補償内容をだいたい知っている」を合わせてもおおよそ 2 割に過ぎない (p.59)。地震保険への加入を検討しない理由や、加入を検討したうえで加入しない理由について、「賃貸住宅に住んでいるから」が最も多く、次いで「保険料が高いイメージがあるから」となっている (p.63,65)。

5. 地震保険制度に対する意識

地震保険制度の内容について認知度を尋ねた設問では、地震保険非加入者において割引制度の存在や保険料に利潤が含まれていないこと、所得税等に関する地震保険料控除制度が実施されていることを「知らない」とする回答が多く（p.67）、保険料についての理解度の低さが、「高い」という先入観を醸成している一因となっている可能性がある。地震保険制度の必要性については、地震保険非加入者においても「必要だと思う」の比率が「必要とは思わない」を大きく上回っている（p.69）。

地震保険料に対する印象については、地震保険加入者の 53.0%および地震保険非加入者の 60.2%が「高い」「やや高い」と回答している（p.70）。地震保険料が高いと感じる理由で最も多いものは、最高で火災保険の 50%までしか保険金額を設定することができない割に高いというもので、6割程度存在する（p.73）。この点について、もし 100%まで設定することが可能となった場合に「(地震保険に) 加入したい、または契約金額を 100%に引き上げたい」とする比率は、地震保険加入者で 3割台半ば、非加入者で 2割程度存在するものの、一方で「加入したくない、または契約金額の見直しは行いたくない」とする者の比率も、加入者で 1割台半ば、非加入者で 2割弱となっており、さらに「わからない」とする者も 5割前後存在している（p.76）。

保険料の構造区分に対する印象については、地震保険加入者と非加入者の間に大きな違いは見られず、「今のままでよい」とする比率が最も高く、4割程度となっている。ただし、「より細分化すべき」や「もっと単純でよい」と大きく差があるわけではない。等地別や住居建物の構造別にクロス集計した結果をみると、保険料が安い区分においては「今のままでよい」の比率が高くなる傾向が見られる。建築年代別には「今のままでよい」という比率に違いはみられず、新しい建築年代になるにつれ、「もっと細分化すべき」の比率が高くなる傾向が見られる。保険料の印象別には、保険料が「高い」「やや高い」の区分で「今のままでよい」の比率は他の区分より低い傾向が見られる。（p.78）

保険料の地域区分に対する印象については、地震保険加入者と非加入者の間に大きな違いは見られず、「もっと単純でよい」とする比率が最も高く、4割程度となっている。次いで「もっと単純でよい」が 3割台半ばとなっており、2割代半ばである「もっと細分化すべき」やや差がある。等地別にクロス集計した結果をみると、保険料が安い区分においては「今のままでよい」の比率が高くなる傾向が顕著に見られる。住居建物の構造別や建築年代別には「今のままでよい」という比率に明確な違いは見られない。保険料の印象別には、保険料が「高い」「やや高い」の区分で「今のままでよい」の比率は他の区分より低い傾向が見られる。（p.81）